

R7 年度 第 1 回運営連絡会記録

園長：こちらの園に着任して 9 年目になった。この会で皆様から忌憚ないお言葉をいただきたいと思う。

経営方針について…今年度の園児数：66 名 （6 月 1 日より新入園児あり）
今年度の職員：21 名

教育目標について…別紙参照

事務局より…

- ① 年間計画について：別紙参照
- ② 園生活の様子について

5 歳児担任：そら組進級当初やる気いっぱいの幼児たちだったが、少しずつ生活にも慣れてきた様子がある。今は決まった時間までに身支度を終えるよう、取り組んでいる。子どもたち同士で声を掛け合ったり、保育者も環境を整えたりしているところ。

〈預かり保育について〉7 時 30 分～18 時 30 分に拡充した。徐々に利用は増えてきている。

4 歳児担任：やま組想像力や好奇心が広がっている。友達同士でのぶつかり合いも増えてきた。保育者が寄り添い気持ちを受け止める援助をしている。子どもたち同士でアイデアを出し合い役割を決めて遊んでいる。自分で考えて挑戦している姿が見られる。

〈教師の研修について〉アレルギー対応や嘔吐発生時等もしもの事態に備える研修を定期的に行っているところである。万が一の場面でも落ち着いて安全に対応できるようにしている。

3 歳児担任：はな組友達の刺激を受けている姿が見られる。毎日たくさんの初めてに出会っている。それぞれが幼稚園生活を楽しんで安心して園生活を楽しんでいけるように援助しているところ。

〈お弁当給食について〉水曜日も含めて毎日基本的に提供している。昨年度までと異なることが増え、教師同士で協議しながら進めている。保護者からの意見は賛否いろいろあるが適宜楽しくお弁当給食に向か

えるようにしていきたい。

〈園内研究について〉

昨年度の研究では一人一人の良さに着目。その成果を踏まえて、本園の幼児の姿を職員で出し合ったところ、遊びへの取り組みの豊かさがあげられた。より遊び込んでいく力を育ていくために、研究テーマを設定。そして昨年度の成果を生かしつつ職員間で学び合うなど、保育力の向上を目指す。具体的には、ビデオカンファレンスで幼児の楽しんでいることや経験していることを保育ウェブで検討するなど。それによって、翌日以降の環境構成や教師の援助を検討している。

- ・プチ研…職員の学びたいことに合わせて、職員間で学び合っている。

(バスレク・ちょこっと遊び・劇遊びの指導等)

- ・こうじまちーズタイム…交換保育を定期的に進めていけるように計画している。

懇談・ご意見

○子どもたちのために手厚い指導をしている。子どもたちが楽しんでいる。8月の預かり保育やお弁当給食など新しいこともあるが頑張っ取り組んでほしいと思う。

○手厚く保育、研究を行っていると感じ、話だけで感激している。幼稚園や小学校との連携はとても良いと思う。

○心やからだワクワクする環境がある。いろいろな工夫ある環境作りは保育者が作っていかなければならない部分であるが、麴町幼稚園はよく遊んでいる子どもたちの様子が見られている。園内研究の中でマインドマップやイメージマップといったものを取り入れるとよいのではないか。お弁当給食は、ホームページを親子で一緒に見ながら「これ食べたよ」の話ができるのもよい。食育が広がるチャンスにもなると感じる。

○区内で支援員をしている。小学校は決められた時間の中で朝の身支度をしなければならいため、幼稚園のうちからそれが習慣付けることはとてもよい。自身も孫が区内幼稚園に通っており、幼稚園での経験が家庭でつながっていると感じる。預かり保育は他学年とのつながりがあったり普段とは違う雰囲気を感じられたりとよく利用させてもらっている。お弁当は職員も含め、みんなで一緒にのものを食べるというところがよいと感じた。

○子育て負担軽減といろいろな政策が出されているが、『子育ては負担が大きいもの』という考え方が前提になることは残念である。これからの子どもたちが自分たちで考えて自分たちの生活を豊かにしていく幼児を育てたいという園の研究に感心した。

また、参観においてお弁当給食の様子を实际知る機会を経験出来てよかった。

○娘がやま組に在籍しており、幼稚園が楽しいと言っている。毎日成長を感じている。
PTA 活動をしている中で先生方への感謝を忘れないことと、常に園児にとってどう
なのかを考えていけるようにしていきたい。参加している会長等は園の方針をよく
理解することができているが、これをどのように他の保護者に伝えていくか、保護者
への発信の仕方を工夫していくとよいのではないかと考えている。

○子どもたちにとって就学は生活の変化が大きい。今年度はスタカリを通して1年生
のスタートがスムーズに進めていけたと感じている。引き続き連携していきたい。

閉会の言葉

皆様からのご助言や励ましの言葉を明日からの保育の活力にしていきたい。